E 山田富士とふるさとの歴史にふれるコース

❶ 鎌田堂（北面地蔵）

堂の背後に源義朝の家臣、鎌田兵衛正清の居城館があったことから鎌田堂という。正清にまつわる地名や言い伝えが残る。中興の祖は佛譽常心で念仏道場として栄え、現在も所願成就のお地蔵様として信仰を集めている。

❷ 東山田郷土資料館

縄文遺跡の上に建ち、約3,500年前の囲炉裏跡を保存。発掘された土器類を始め、江戸時代からの生活民具や農機具等、収蔵数約一万点。「シルクロード仏陀の変遷」をテーマにした石仏などを保存展示。開館は水曜日、要予約。

❸ 観音寺

貞観年中(859～877)僧の安然により開基。中興の祖は堯観上人と伝えられる。古くから存する板碑4枚のうち1枚は建武4年(1337)と判読できる。現存する念珠は50畳くらいなければ広げられないという。

❹ 山田富士公園

山田富士の東側の稲荷谷は、以前は水田が広がり稲が栽培されていた。港北ニュータウンの造成事業により、谷は埋め立てられ、湧き水を利用して池が造られ公園になった。

❺ 山田富士

北山田にある富士塚は、富士信仰の山として築かれ、驚くほど富士山に似せて造られている。頂上まで登ると噴火口があり、お鉢まわりができる。麓に咲く桜は見事である。

❻ 長泉寺

真言宗豊山派に属し、本尊は不動明王。寺の入口の左右に風雨にさらされてきた石の仁王像が建っている。本堂の左手には鐘つき堂が、右手の大きな銀杏の根元には、穏やかな表情の六地蔵が並んでいる。

❼ のちめ不動尊

江戸時代後期にのちめの住民が、八王子からお不動様(不動明王)を背負ってきてこの地に祀り、それ以来守り神として護持してきたといわれる。ご本尊修復のとき志村又右衛門（当時の旗本）の名が残されていた。

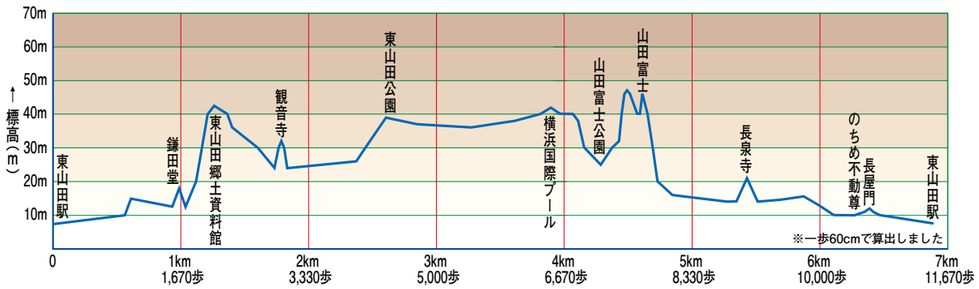
❽ 長屋門

旧山田村は、八王子千人同心・志村氏の知行地。江戸時代末期、当時の名主・栗原七郎エ門建主の名主門。明治末期までは茅葺きであった屋根裏から正徳元年の高札も発見され、東山田郷土資料館に展示されている。【非公開】

山田富士公園の「どんど焼き」

正月14日に門松、しめなわなどを持ち寄って焼く行事。この日の前に作った団子を木枝(樫の木など)に挿して、セイノカミの残り火で焼いて食べる。

地名の由来

山田(やまた)……山間の田の多い場所につけられた地名。
芝生(しばふ)……芝草地あるいは雑木林の多い場所のこと。
城山(じょうやま)……山田城跡をいう。山田城は鎌田正清の居城。
道中坂(どうちゅうざか)……中原街道にある坂。坂の途中に鎌田堂があり、その境内を、あるいはその脇を通る坂のこと。
打越(おっこし)……山道を登り峠を越えた場所。丘陵地に多い地名。
富士谷(ふじやと)……富士塚に由来する地名。
殿谷(とのやと)……鎌田正清の居館があった一帯の集落の名称。
稲荷谷(いなりやと)……山田富士公園の東側に十二柱稲荷神社がある。稲荷は五穀（イネ、ムギ、アワ、キビ、マメ）の神として祭った。
二注連谷(にしめやと)……西メ、二メなどと書く。またノッチメともいう。境界の場所に付けられた地名。二は木のこと。
百石橋(ひゃっこくばし)……小川に架けられた橋で水音地名。川水は北山田の富士谷から流れてくる小川で、水路は地下を流れる。

〔参考書籍〕中川の地名、続中川の地名・・・吉野孝三郎氏